

名前：

私は、「これから、新聞や雑誌は必要ない」という意見に賛成です。そもそも、世界中でインターネットが自由に使えるようになり、たと言われる一方で、インターネットを使う人と使えない人との間にあたる「デジタル・デバイド」が広がっており、こののも事実です。もちろん、インターネットを使う人のほうがより多くの情報を得られ、使えない人は情報を得ることが出来なってしまうことは明らかでしょう。

では、——世界中の人が本当の意味で等しく、インターネットを自由に使いこなすことが出来れば、この問題が解決されるかというと、そういう訳にもなりません。なぜならば、多量の情報を得られすぎると、どの情報が真実であり、どの情報が不正確であるのかを考えなければならなくなるといって、新たな問題が生じてしまうからです。

新聞や雑誌というものは、このような問題を解決してくれそうです。機械を使う訳ではないの

で、デジタルデバイスが起る心配は全くありませんし、しっかりと発行するにあたり、情報の取捨選択はあてなわれてるので、多量の情報の波にのみこまれるという心配もありません。

つまり、新聞や雑誌にあって、インターネットに不足しているもの。それは「信頼性」であり、これが全てであると思われれます。

この「信頼性」は、限られる、選ばれぬ人間だけが新聞の発行にたずさわることによって、長い年月をかけて、真実しか伝えこたわったという歴史から来るものです。近年、急速に登場し、誰もが簡単に情報を伝達することのできるインターネットが、このような信頼性を獲得するのは難しいでしょう。

よって、私は、これからどれほどインターネットの技術が発達したとしても、新聞や雑誌の意義が消滅するということは、決してないと考えます。